

以テ前ト符合セズ、如何トナレバ、己レガ記憶ノ壯ナルニ任セテ、寫本ヲ設ケズ、徒ニ虛記スルニ依テ年月ヲ隔ル則ハ先ニ書スル所ヲ悉ク遺忘スルユヘンナリ、如此諸人ヲ誑カシテ、其口ヲ劔ヒ、遂ニ元祿戊辰年○元ニ至テ、七十歳ニテ病死ス、

〔續武家閑談 十九〕

澤田源内傳替稱六角中務氏郷

建部賢雄著○本文前出、故略

高敦○本村

按ずるに、右建部兵庫賢雄、同隼之助賢明が記す所尤委し○中抑本朝近世の史譜に

委しきは、姫路の侍從式部大輔忠次朝臣、右少將攝州大守義行朝臣、嶋原城主主殿頭忠房朝臣、

淺羽三左衛門成儀、小林彦太郎正甫初遠山信春云予が實父根直利がごとき、彼澤田が僞系妄作を

信せず、殊に小林正甫が重編應仁記の始に是を辨ず、尙鴻儒室氏鳩巢先生の僞系辨誠に明ら

かにして誣べからざるものなり、

〔天明度田沼盛衰輪廻記〕田沼主殿頭出生之事

番町御厩谷新御番佐野善左衛門といふ士あり、其昔佐野源左衛門常世六代之孫にして、佐野刑

部國吉といふて、上州片岡之郡に住居して、足利二代義詮公に奉公して、常世より二十七世之孫、

佐野善左衛門藤原正意とて、代々筋目正しき家柄也、小身とはいへども、佐野系圖持來る也、然る

に田沼家は大身といへども系圖なくして、主殿頭○意是を聞及び、上州片岡郡佐野の郷に、むか

し田沼大明神といふ社あり、是佐野國善の建立なり、○中主殿頭思ふやうは、若佐野家の系圖あ

らば、我系圖を作るによき種にも可成と思ひ寄り、夫より御小納戸にて佐野龜五郎とかやいふ

士ありける故、主殿頭此仁を呼入て、種々馳走饗應して、右の系圖の事聞ければ、其儀に候は、

新御番佐野善左衛門方、本家なれば、あの方にくそ有之段被申ける、然らば貴殿御取合にて、系圖

少々の間借用申度とたのまれける故、先々善左衛門江咄見んとて退散いたされたり、然るに明

日早く龜五郎善左衛門かたへ來りて、委細の事を咄頼ければ、善左衛門被申けるは、佐野家に大